

日本の飛行機切手

—1919～2021—

1919年(大正8)10月、「郵便飛行試行」を記念する切手が発行されました。その後約1世紀の間に発行された、飛行機を描く切手とその使用例を展示し、我が国における航空郵便の歩みを大まかにたどります。



【参考文献】

木村 秀政 「飛行機の切手」、丸の内出版、1973年(昭和48)。

山口 修 「日本記念切手物語 戦前編」、日本郵趣出版、1985年(昭和60)。

昭和切手研究グループ 「昭和切手とその集め方」、日本郵趣出版、1985年(昭和60)。

園山 精助 「日本航空郵便物語」、日本郵趣出版、1986年(昭和61)。

笹尾 寛 「航空郵便のあゆみ」、郵研社、1998年(平成10)。

成田 弘 「日本の航空郵便」、日本郵趣出版、2000年(平成12)。

「日本切手専門カタログ2004」、日本郵趣協会、2003年(平成15)。

「日本郵便印ハンドブック2008」、日本郵趣協会、2007年(平成19)。

「日本普通切手専門カタログ 戦後・ステーションナリー編」、日本郵趣協会、2017年(平成29)。

航空郵便の黎明期

飛行郵便試行記念切手

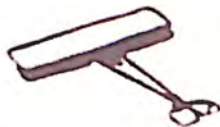
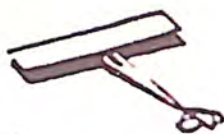
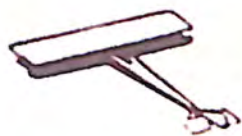
ライト兄弟による人類初の有人飛行(1903年12月17日)後すぐに、欧米では飛行機による郵便物搬送の試行期に入りました。我が国でも1919年(大正8)10月、初の懸賞金つき飛行郵便試行が東京一大阪間往復で開催される運びになり、逓信省は記念切手2種を発行しました。

記念切手2種は当時の田沢旧大正毛紙切手に、複葉機を石板加刷したものの。発行枚数は1銭5厘が5万枚、3銭が3万枚と極めて少なく、東京と大阪市内の1・2等局37局で、飛行郵便の引受日とその後3日間のみ発売されました。しかも、発行月の10月31日まで国内郵便のみでの使用に制限されました。この記念切手の入手が難しく、簡単なシルエットの加刷も誘因となって、田沢切手にニセの加刷を施した多くの偽物が出回りました。



愛称「赤トンボ」

愛称「青トンボ」



加刷の図案

ニセ加刷の例

飛行郵便試行記念はがき

東京一大阪間の飛行郵便試行に先立ち、帝国飛行協会は記念はがき3種を発行し、1組10銭で販売しました。多くは1銭5厘の記念切手を貼り付けて、記念印が押されました。一部は、「飛行郵便」と朱書または朱印を押印の上、懸賞飛行に参加する飛行機に積み込まれました。



飛行士を描く記念はがき
大阪 8. 10. 6

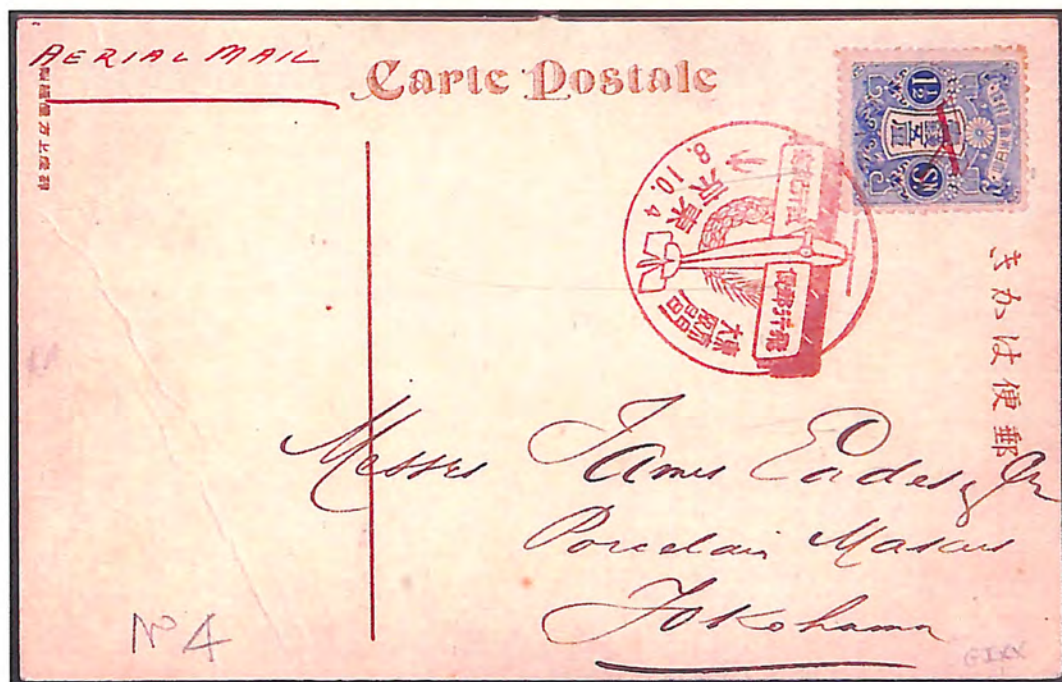


天女を描く記念はがき
大阪 8. 10. 6

飛行郵便試行記念はがき



富士山を描く記念はがき
東京 8.10.4



「事故飛行中止」(東京)

東京発の飛行郵便試行が予定されていた10月4日、翌5日も雨天となり、飛行試行は同月20日に延期されました。東京で引き受けていた郵便物13,434通の内、121通が差出人に差し戻し、残りの13,313通が「事故飛行中止」の印(とび色、枠なし、明朝体)を押されて、鉄道で大阪に遞送されました。

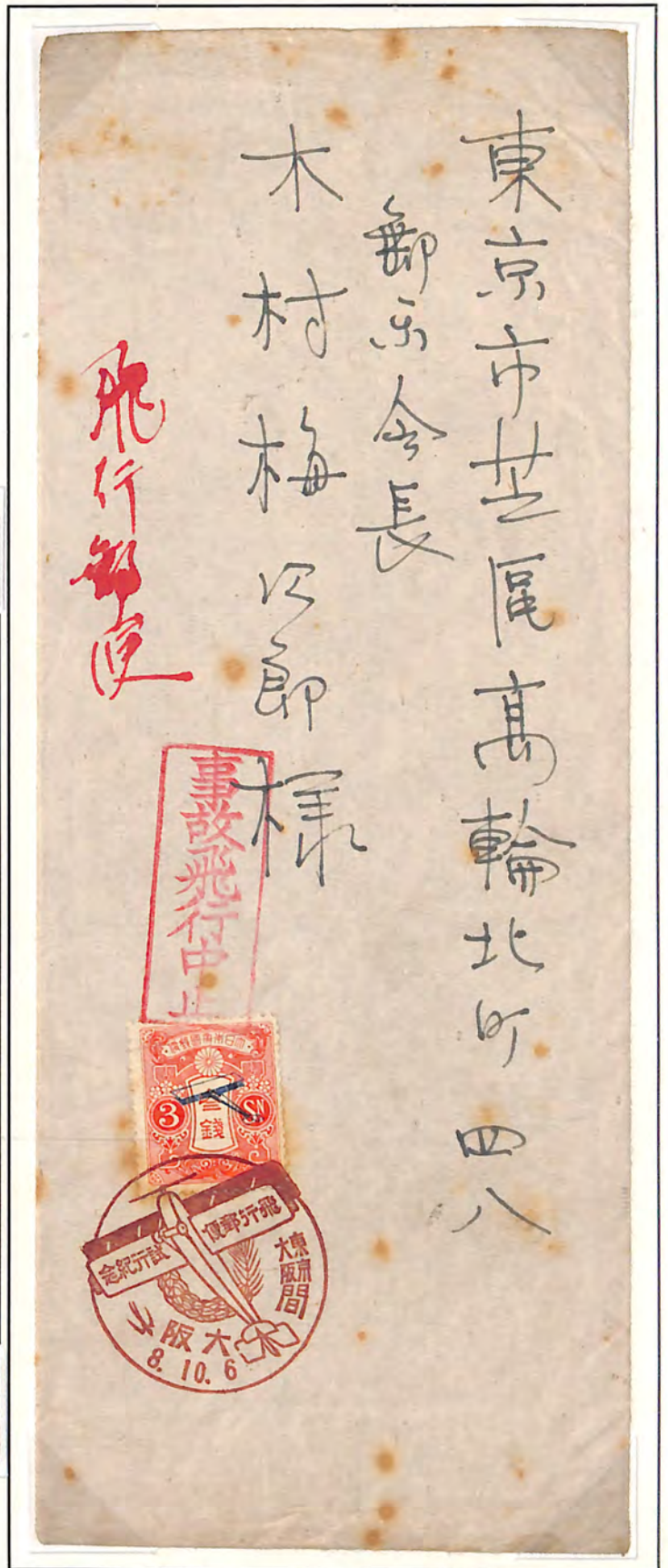
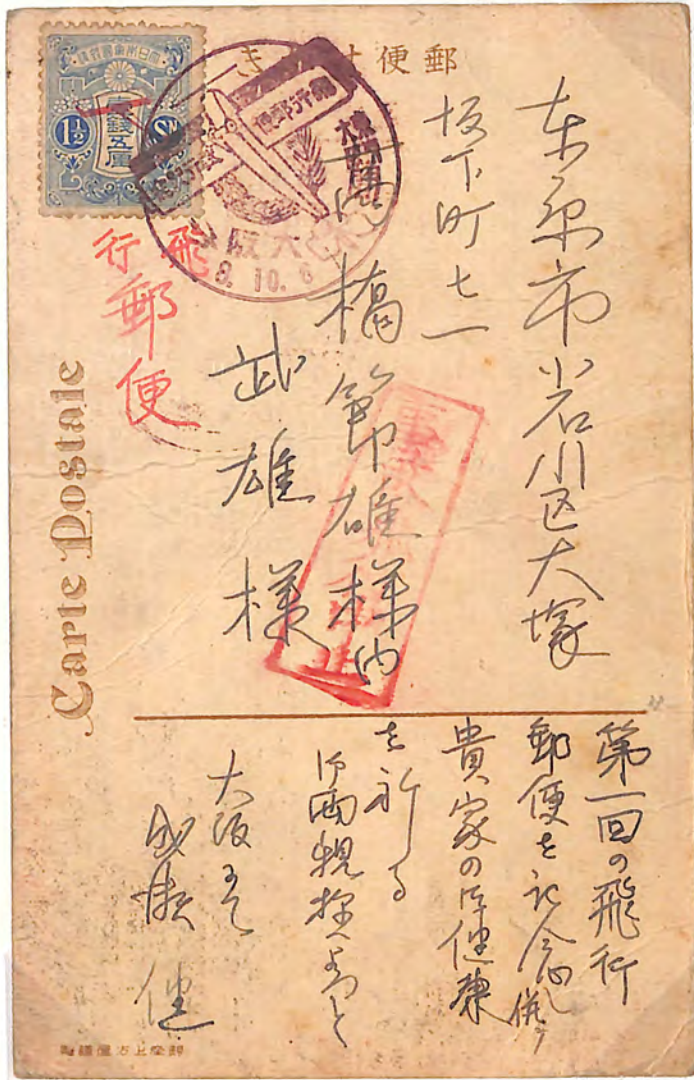
(山口 1985, p.80,
園山 1986, p.41)



「事故飛行中止」(大阪)

東京発の飛行中止を受けて、復路となる大阪発の郵便飛行試行も中止されました。予め引き受けていた郵便物 1,121 通のうち、返戻 7 通を除く 1,114 通が鉄道便で運送されました。その際、「事故飛行中止」の印(紅色、枠つき、楷書体)が押されました。

(山口 1985, p.81、
園山 1986, p.41)



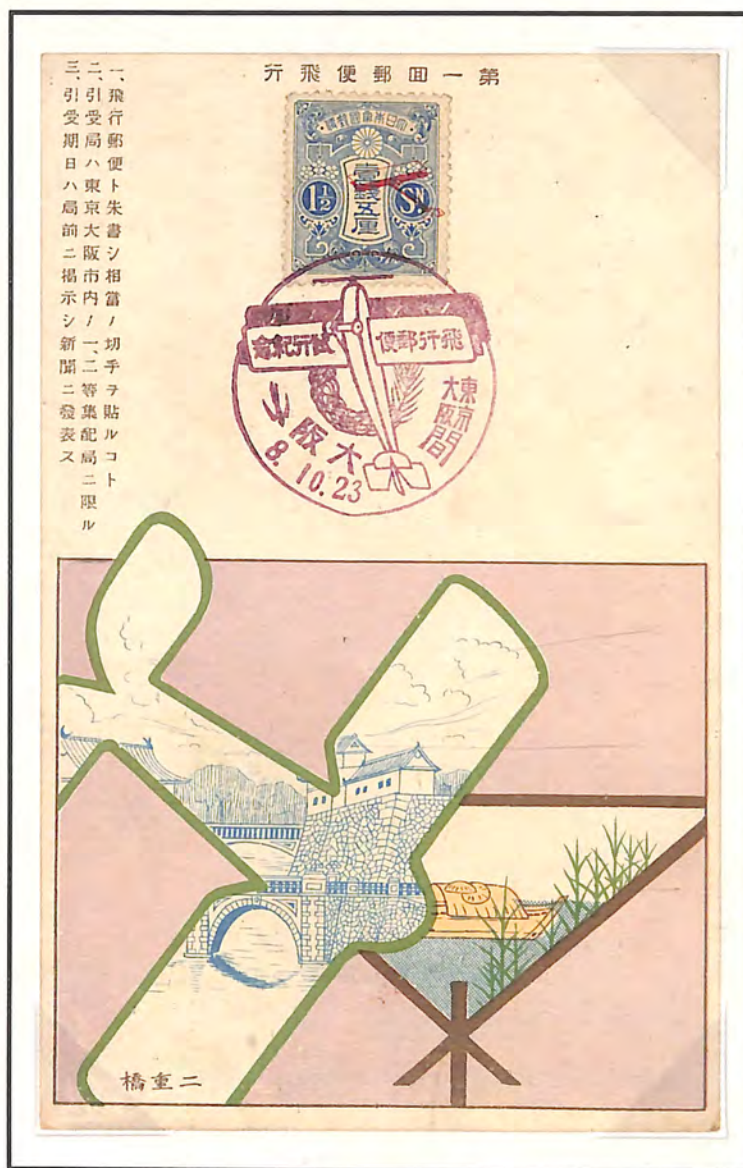
郵便飛行試行第2回記念はがき

雨天のため郵便飛行試行は10月20日に延期されました。帝国飛行協会は2枚1組10銭の記念はがきを、東京と大阪で3万組発売しました。

しかし、またも雨天に祟られようやく22日に東京から大阪へ出発し、翌23日大阪から東京へ戻りました。搬送した郵便物は以下の通り。

東京—大阪		大阪—東京	
封書	440通	封書	360通
はがき	5,447通	はがき	2,946通
計	5,887通	計	3,306通

園山(1986, p.44)



大阪 8.10.23

第2回郵便飛行試行記念はがき

翌1920年(大正9)には11月20日から3日間、2回目となる懸賞金つき飛行郵便試行が大阪~久留米間で企画されました。またも雨天のため翌日に延期されたものの、大阪~善通寺、善通寺~大分、善通寺~久留米間で郵便物を搬送しました。

飛行協会は2枚1組の記念はがき3万2千組を各発着地で発売しましたが、ほとんどが記念切手ではなく、普通切手が貼られています。



参加の6飛行士を描く記念はがき
大阪 大正9年11月



航空路を描く記念はがき
大阪 大正9年11月

民間による外地との飛行郵便試行

民間の空港会社による内地と外地を結ぶ飛行郵便は、林勇スタンプ商会によって克明なカバーが作成されています。



田沢3銭貼 京城 2.9.27 ⇒ 旅順 2.10.3

民間による外地との 飛行郵便試行

大日本航空株式会社は1925(大正15)年9月、大阪と朝鮮、大連を結ぶ飛行郵便実験を6回挙行し、一定の成果を収めました。朝鮮(京城、仁川)では飛行機型をした独特な消印が使用されました。

1927(昭和2)年8月10日からは、朝日東西者定期航空会の東京—大阪線と接続して、東京—京城—大連線が完成しました。

田沢1銭5厘貼
仁川 2.9.9



航空輸送展覧会



昭和大礼 10 銭、大正銀婚 8 銭貼(区内航空便封書)
東京中央 4.8.23 前 11-12 ⇒ 大阪 4.8.23 后 6-7